

2025 年 2 月 18 日

陳 述 書

高田陽平

こんにちは。原告の高田陽平と申します。福岡県太宰府市の出身で九州大学土木工学科で学ぶ大学 3 年生です。気候変動が人間の手には負えない不可逆的なフィードバックループによって私たちの文明の存続を脅かすのは将来のことかもしれませんが、気候変動による被害は未来の問題ではなく今既に起きています。世界中で毎年数えきれないほど多くの人が激甚化した気候災害によって生活や命が脅かされています。

昨年、これまで国内の猛暑日最多記録であった群馬県桐生市の 46 日を大きく上回り、私の故郷、福岡県太宰府市が合計 62 日の猛暑日を記録しました。これは 1 年のうち 2 カ月もの間 35℃以上の日を記録したことを意味します。

夏になると、もはや外出することが命の危機につながるレベルの暑さで、夏休みにレジャーやスポーツを楽しむことは出来ません。地元の小学校ではあまりの暑さで外遊びが中断されるケースもみかけられます。子供たちが外で自由に遊べない姿は不憫で見てられません。このようなことは私が子供の頃はありませんでした。今からおよそ 10 年前、私が小学生だった 6 年間は猛暑日が年間で 20 日を越えたことすらありませんでした。

また、これまで見られなかった集中豪雨が発生するようになりました。2017 年の九州北部豪雨では福岡県南部の朝倉市で土石流による甚大な被害が発生しました。私の知り合いも被災したのですが、今年で 8 年目となる今もまだ復旧は全然進んでいません。あれから毎年のように起こる豪雨に、私たちはいつ自分の家が浸水するか怯えながら暮らしています。

このように気候変動の影響は現在進行形で酷くなっています。もはや気候変動を止めるのは手遅れじゃないかと思うかもしれません。でも、諦めるには早すぎます。IPCC の科学者たちは今ならまだ人間の手によって止められる段階だと訴えています。それにも関わらず

被告らの排出削減計画は 1.5℃目標に整合しないどころか、COP28 や G7 広島サミットで日本政府が合意した内容にも違反しています。こうしたことがどうして不法行為でないのでしょうか。

将来の話だけでなく被告には過去そして現在の温室効果ガスについての責任があるはずです。被告らは CO2 排出量が国内最多の JERA を含むトップクラスの CO2 排出企業です。

2021 年に被告らの排出した CO2 の合計は約 3 億 2600 万トンで、日本のエネルギー起源 CO2 排出量の 3 割にもなります。国レベルで比較すると被告ら 10 社だけで、イギリスに次ぎ世界約 200 か国中 18 番目に多い量を排出していることになります。これはイタリア 1 か国の合計排出量よりも大きな値であり、同年の世界全体の排出量 363 億トンの約 0.9%を占めています。

気候危機の切迫した状況を考えると、今この瞬間にも被告らが運用する火力発電所を全て停止させてもおかしくない状況です。それが現実的でないことは我々も十分承知しているため、目標に向けた段階的な廃止を求めているのですが、それが私たちの出来る最大の譲歩だと考えています。

私は気候変動に対する不安で弱冠二十歳にして人生の展望を見いだせなくなりました。毎日気候不安に苦しめられています。いつになったら私たちの声は反映されるのでしょうか。私が働く頃にはもう手遅れかもしれません。今ならまだ間に合います。被告に対して 1.5℃目標に整合性のある排出削減を義務付けて、どうか私たちの人生を保証してください。